

2020 年度日本天文学会天文教育普及賞

【授賞者】 柴田 晋平（しばた しんぺい）

【活動名】 「星のソムリエ」制度の創設と人材育成循環による天文普及への貢献

柴田晋平氏は、山形大学の教授として中性子星の理論研究および学生教育に携わる一方、1998年に山形大学において「小さな天文学者の会」を立ち上げ、天文学の普及活動を開始した。その活動と実践を通じて、一般の方々の中には、熱心な天文ファンでもなく、プロでもないものの、天文学の広報普及活動に携わりたいと思っている人が相当に多いことに気づいた。そして、それまで日本に存在しなかった星空解説を行える知識と技能を習得する資格制度として「星のソムリエ」制度を立ち上げた。

こうした資格を希求する人は潜在的に多く、元々興味があった人はもちろん、興味はあるが、どうアプローチしていいかわからなかったシニア層や主婦層を天文学の広報普及活動に取り込むことに成功し、天文普及の世界に新しい風を起こした。ソムリエは、星空解説に必要な基本的な天文学のほか、星の文化など幅広い知識が求められる。講座では、科学と文化を融合した新しいメソッドを用いて育成が行われていることも、注目すべき点である。本ソムリエ制度が実技試験を行って最終認定していること、それによって実際の観望会で主催者側に立ち、スターウォッチングという趣味に解説を加えることで、一般の人がより広い普及活動の現場に立つことができている。さらに、これまで公共施設では困難であった人材育成に関して、自主的な活動を基盤としたこの制度ならではの、ソムリエが後進のソムリエを育てるなど人材育成の好循環が生まれている。

現在北海道から沖縄まで大学や公開天文台やプラネタリウム、科学館などの45カ所において星のソムリエ養成講座が開催され、2020年4月までに1000人を超える星空案内人と5000人弱の星空準案内人が認定を受けている。また、こうして育てた星のソムリエたちは各地・各施設で観望会を中心とした広報普及事業を展開している。一例を挙げれば、「星のソムリエ®@西宮」の主催行事として、阪急西宮北口駅南東側にある阪急西宮ガーデンズにおいて、「星空案内 in 西宮ガーデンズ」を2009年に開始し、2021年1月段階で、44回を数えている。

以上のように、柴田氏は研究・教育の本務とは別に、本制度を発想し、さまざまな実践を試行錯誤の中で育て、全国的に展開させたことは、天文学の普及活動としては、その貢献は極めて大きく、ここに2020年度天文教育普及賞を授与する。